

# 平成30年度事業報告

## 1. 事業概要

平成30年度の我が国経済は、緩やかな回復が続きました。輸出はおおむね横ばいとなっているものの、企業収益が過去最高を記録する中で設備投資が増加するとともに、雇用・所得環境の改善により個人消費の持ち直しが続くなど、経済は好循環に回りつつあります。

ただし、相次いだ自然災害により、個人消費や輸出を中心に経済は一時的に押し下げられました。

こうした中、平成30年度の事業実績は、年度末正会員数は1,398名で前年度に対して14名の減、受託件数は5,389件で123件の減となりましたが、契約金額は753,214,410円で20,691,624円の増となりました。また、従来の受託事業とは別枠になる派遣事業においては、契約金額は61,933,571円で対前年比4,887,185円の実績増となりました。

地域に密着した公益社団法人としてシルバー人材センターは、会員による自主的・主体的な運営と、共働・共助のもとで働くことを基本理念に、創意工夫を重ね、高齢者の就業と会員の拡大を図りながら、地域社会の活性化に貢献してまいりました。

## 2. 事業実施状況

### (1) 数値目標の達成について

- ① 会員数は、年度末直前までは前年を上回る数で推移しておりましたが、3月の退会者数が多く出たこともあり、期末では1,398名となり、目標値1,500人に対して102名未達で、前年同時期に対して14名の減となりました。
- ② 契約金額は、目標値740,000,000円に対して実績額753,214,410円となり、13,214,410円の目標超過達成となりました。
- ③ 未就業会員数は、目標値200名以下に対して238名と、未就業会員相談会を複数回開催したにもかかわらず38名未達となり、前年同時期に対して4名減となりました。

### (2) 会員の確保・就業機会の提供について

- ① イベント等での普及活動に加えて、民間や公共の宣伝媒体を活用し年間を通じてPR活動を行いました。
- ② 関連機関を通じて公共施設等へチラシ・パンフレット等の常置を依頼し、受注確保や拡充を図りました。
- ③ 入会説明会を前年度より1回多い51回実施し、延492名（前年549名）の

方が参加されました。これにより、シルバー人材センター事業の目的や趣旨に賛同した延 279 名（同 318 名）の方が新規に入会申し込みされました。また、男性会員に比べ少ない女性会員は、トータルで 387 名と前年比 13 名減、構成率にして 27.7%と前年比 0.6 ポイント減となりました。

- ④ 会員からの就業相談は随時受け付け、未就業の会員には会員状況相談書を通じて希望職種や条件の見直しをお願いするなど、就業会員増を目指しました。また、事務局からの通信紙「シニア通信・アクティブ」に就業会員募集情報を載せて、希望する会員を募ることで、会員の希望により近いマッチングになるように工夫しました。
- ⑤ 一定期間未就業の新入会員に対して個別の就業相談日を案内し、未就業の解消に向けて積極的に努力しました。
- ⑥ 派遣事業は堅調な伸びを見せて、前年比 17 件増の 69 件の受注に対し 122 名の会員が就労し、前年度実績の延人員 12,645 人日に対して 13,729 人日と、約 9%の成長となりました。

### （3）会員資質の向上、社会参加活動の推進について

- ① 「接遇力向上」「業務品質向上」をテーマに駐輪場管理や公共施設管理に就業している会員対象の研修を実施し、全 18 回で計 430 名が参加しました。
- ② 千葉県連合会主催の講習会 3 回に 48 名の会員が参加して、ビル清掃の技術や救急救命などの知識・技能の向上に努めました。
- ③ シルバー人材センター会員のボランティア団体「くすの木会」の活動として、江戸川クリーン作戦ゴミ拾い（5 月）に合計 25 名が参加しました。

### （4）普及啓発活動について

- ① 地域や公共団体が主催する祭りや集会などに積極的に参加し、チラシ・パンフレット・ティッシュを配布するなどシルバー人材センターの普及啓発に努めました。
- ② 関連関係機関を通じて、高齢者の利用率の高い施設の窓口で会員募集チラシを配布していただきました。
- ③ 会員が利用しているスポーツクラブに会員募集チラシを置かせていただき、普及啓発を図りました。
- ④ 女性限定の説明会を企画し、女性の入会促進を図りました
- ⑤ 平田事務所棟及びシルバーワークプラザを外装リフォームした際に、新たに屋根の上に看板を設置し、JR線高架沿いの立地を生かしたPR強化を図りました。
- ⑥ 紹介動画を掲載したホームページを適宜更新し、PR効果のアップを図りました。
- ⑦ 会員募集チラシを会員数が少ない地域限定で機動的に新聞折り込みし、入会説明会参加者をはかるなど、会員確保に向けて積極的にPR活動を行いました。

- ⑧ 月に 2 回発行している市広報紙に、会員募集記事及び仕事募集広告を掲載し、センターのPRに努めました。
- ⑨ 「シニア通信・アクティブ」を 4 回発行し、会員との情報共有を図りました。また、併せて会員募集チラシを会員に送付し、機会をみて配布していただくようお願いし、会員募集活動に繋げました。
- ⑩ 「シニア通信・アクティブ」を通じて、センター会員として就業することが健康寿命を延ばしていくことにつながるということをPRしました。

#### (5) 安全・適正就業の推進について

- ① 千葉県シルバー人材センター連合会主催の安全適正就業推進員の研修会に参加し、「高齢者の交通安全対策」および「就業中の事故未然防止」について学び、センター内での研修会などで役立てました。
- ② 全会員に向け「安全・適正就業基準」の規程を配布し、安全就業への意識向上を促しました。
- ③ 「シニア通信・アクティブ」に、傷害事故・途上事故の報告および、熱中症やインフルエンザ予防、健康診査の受診などの啓発記事を掲載し、健康管理について呼びかけました。
- ④ 安全・適正就業強化月間に会員就業先へ巡視を行い、安全面で問題があると確認した作業 1 件について改善を促しました。その他については安全・適正に就業が守られていることを確認しました。
- ⑤ 「会員状況相談書・ヒヤリハット報告書」を全会員に送付して、就業中のヒヤリハット情報の収集と併せて、就業会員へは就業内容に変更がなく適正に就業されているかの確認と、条件面で折り合わず声掛けができていない未就業会員には希望職種や希望曜日・時間帯などを申告していただき、ミスマッチなく就業紹介ができるよう努めました。併せて、身の回りに潜む傷害・物損事故を防止するため、危険事項とその対策を講じた啓発資料を配布し、注意喚起を行いました。
- ⑥ 事故発生者に事故報告書を提出してもらい、分析した結果の対策案を通達し、同様事故の再発防止を図りました。
- ⑦刈払機を使つての草刈り作業に就業する 2 名の会員に対して、安全衛生教育の履修を支援しました。
- ⑧ 全国的にも増えている高齢者の交通事故については、啓発のチラシ・リーフレットを新入会員に配布するとともに、全会員にも「シニア通信・アクティブ」と併せて送付し、交通安全の周知を図りました。
- ⑨ 市川市交通計画課を講師に迎え、「自転車の安全利用」についての自転車安全講習会を開催し、年度内に自転車に係わる事故を起こした会員を含めて 21 名が参加しました。またこの機会に、市川市市民安全課を講師に迎え、「電話 de 詐欺防止」についても併せて講話いただきました。
- ⑩ 「熱中症予防について」の講習会を開催し、会員 50 名が参加しました。

- ⑪ 除草作業会員 32 名を対象に「虫刺され・刈払機による飛散事故防止」をテーマとした講習会を開催し、安全就業に対する意識向上を促しました。
- ⑫ 就業先と協議して、契約内容と会員の就業状況について確認のうえ見直しを行い、法令を遵守した適正な就業を図りました。結果として、センターの請負就業の形態として馴染みにくかった 2 事業所の 2 契約、会員 5 名の就業を派遣就業に切り替えました。

## (6) 事業推進体制の強化について

- ① 法人の運営について、法令で求められている手続き等を適正に行いました。
- ② 毎日の終礼を継続することで職員間の価値観と情報と感情の共有化を図り、円滑かつ効率的な業務運営に繋がりました。また、職員の業務担当の変更を行い事務局体制の効率化と活性化を図りました。
- ③ ルーティン業務を担う臨時職員 2 名を新たに採用し、事務局体制の強化を図りました。
- ④ 理事会は、全 7 回開催し、事業執行方針や規程・規則の改正など重要な案件を協議・検討し、円滑な事業運営が行えるように努めました。また、理事及び監事は任期満了に伴う改選を行い、新任の理事 4 名が就任いたしました。
- ⑤ 委員会活動は、企画総務・普及啓発・就業開拓・安全の 4 委員会体制となります。
  - 企画総務委員会は 4 回開催し、各委員会からの報告をもって事業全般について意見交換をしました。また、理事会に上程する前の重要案件について内容の確認を行い、理事会の円滑な運営を促しました。
  - 普及啓発委員会は 5 回開催し、会員の拡大・確保につながる入会説明会資料やセンター案内パンフレット作成についての意見交換や、イベント会場での普及啓発活動などを行いました。
  - 就業開拓委員会は 3 回開催し、会員の就業の確保について意見交換をし、未就業会員を対象に就業相談会を積極的に行うことで未就業の改善に繋げることが出来ました。
  - 安全委員会は 4 回開催し、会員の安全・適正な就業についての意見交換をし、事故ゼロに向けた取り組みについて意見を交わしました。また、就業状況の安全の確認を行うため、当センター及び県連合会主催で就業現場の巡視を計 3 回行いました。
- ⑥ 職員については、全国シルバー人材センター事業協会や千葉県シルバー人材センター連合会等の関連団体、及び民間団体が主催する各種会議・研修会に参加して知識を習得し、日常業務の円滑な執行に役立てました。
- ⑦ 市民から人気の高い植木職の配分金単価の見直しを図り、同職事業収益の増加に繋がりました。